てそが思いあぎので成度不書のはての本いはに良つ者も二二在『1 い の 数 い け り ま は 飽 ? も 安 の 生 じ も こ 高 る な 長 く の に 多 一 ○ 入 ど 私 ま よ 冊 ま る ま し 三 き ` 読 の 根 活 め 全 と 校 時 い く 知 エ つ く 冊 〇 手 く の すうあす本すた〇ますみ感底にてくなっ代よ読らピい読と〇でと読 。なり。に。が代せる返情に憧読思が旧はうまれソてみ言 年きる書 本ま私出こ、終んにしに流れんいら制、にれて1の返わ)るマか にすは会のそ盤。つて共れまだ出こ)主思続いド説しれ もンら 数。幸えようで北れい感てし高はのとにいけまや明たてのボー 多そいたうす、杜てましいた校あ時東一まてす文は本途 はり印 くしにこにる私夫、すまる。牛り代北九すいが章不を方 ` 青 象 出てしと、とはさ新がし、大のまに大四。る、自要挙に 新春に 会 学 て は と ま 最 ん し 、 た 漠 学 頃 せ も 学 ○ こ 理 こ 体 で げ 暮 潮記残 え生、幸もた近がい自。然生にん旧で年の由のがしてれ 文 🗀 っ るのそせに新そ本印分そとのは。制す代本は本面よみま 庫って こ皆のな歳しの書象がのし頃、そ高。、にそが白うまし `北い とさよこをい年をを成後たに学れ校私舞書れ多い。した 新杜る をんうとと発齢書も長も憧は生でには台かだくこーたが 潮夫本 社 ` 願がなだっ見をいつ。、憬、寮もつ当はれけのとつ。、 っ、本とてが過たの老何や本で、い然松てで人は一著最 、現

齊 二 東 ○ 京 一大 宣 六学 一 年出 3 版 月会 \neg 編 集 部

大 教 師 が 新 入 に す す め る 本 2 0 0 9

1

なしヴ皆すか在だ間そ運のト偏工 本 🗐 3 予てイさへら・未三う動名 | 微 | 空久ナ私 断もエんま一非解次うが前ク分ス気二ヴが は、│にだ○存決元ま完でスカトや○ィす すやスも解○在で流く全すは程 | 水○エす ぐはトチけ万証すのいに、こ式クの九一め にり」ャそド明。) き理 - のでスよ年スる 裏、クンうルに実解ま解の方記方うごト東 切解ススなのは際がせで方程が程な | 京 らの方が気賞ア、存んき程式さ式流 ク大 れ挙程あ配金メこ在。る式をれと体 ス学 ま動式りはがりのすまわを最まよのすはをまあ懸カ方る、け解初すば運 方 出 程版 。複相すりけの程か数でけにへれ動 式会 本雑当。まらク式否学すば導するは \mathcal{O} 書でにませれレのか的が、いヴ非、 数本 は、簡たんてイ解がに、流たイ線ナ `安略、かい研の、、話体人工形ヴ こ直化ナらま究存ま空はの達とのイ

十が実高よと自はしのかのれるや義み 分理際度りの然意、意。人をも方はま応 価解のな深出現味数義しに理の法、し用 値で研数い会象の学やたと解でを皆た数 がき究学よいをあを功がっしす理さ。学 あな例的りを舞る学徳って将。解ん大の るくをな確演台こぶをて難来ししが学立 とて通概か出とと事諸、しにか使将の場 思もじ念なししだへ科早い向しい来一か い、てや理、てとの学いこけ、こ必二ら ま気体方解さ様思動と段とて大な要年こ す分験法のら々い機の階で我学すに生れ 。をでがたになまを関では慢一たなでら 味き活め、数す明わ数なす年める学の おま躍に自学いるの段基理数を で本すなでの段基理数を だ。る、現なで学しは階礎的学選 け細事よ象概は と知事なる。 で部がりの念しと解事うくそな念講で

九 ~ ¬ ¬ か 2 六と数非らこ 年も値線 ħ 一に解型 だ 山析の け 口と現 は 昌 非 象 読 哉線と 〜型解 で 編現析 お `、象 ╚╸ e E う 本 評 究 者 \mathcal{O} 立

力*。*

す達でと数超し教主用が大値さ題れ簡なす合数自すめ様書解 東馬4 かすくつ界ナ的こあ家しれ °を 豊 し 値 え か 示 題 の ` 数 解 て に な 単 計 が `学 然 °る 々 と 析 本 京 数 私 も る る 解 の ヴ で れ り に た ら かま解てしすは講はすいなし析しなる良義や科は伝処こ間だコンカナンがたいがいで「統すと題けンピ法に う学執義、出析 う学執義、出析 う学執義、出析 う学執義、出析 う学執義、出析 う学執義、出析 う学執義、出析 う学執義、出析 う学教義、出析 う学教義、出析 う学教義、出析 う学教義、出析 う学教義、出析 う学教義、出析 う学教育、出析 う学教育、出析 う学教育、出析 う学教育、出析 う学教育、出析 う学教育、出析 う学教育、出析 う学、新聞、 これ からからない でというというない かった かった かった からからない きとない きとない はいました かいまま ちまい からから まま きいから かいまま 方にある かい という ない はいまま かいまま ちまい からから まま きいから かい 思決ま 方にある かい 思決ま 方に あいい まま は 三、初か ば世果す。な版で値う目けか析。しれる算ま学 る体数で年 思く、を ^お 教いそ一的りすとちうがう、くくていの確目 _て 示まれつなま。、まな得と単れのもま人か標 _、 をすをの応す東数す問ら、純ま場、

か思決ま程書かい にあるをといる にあるをといる を表現している。 がのかい。 のかい。 のかが °のれい ^柱 ○学り 良、山間産てう に ¹ にす 2 試んどが出るは、ジもく 石りてと世は異、ど門説